

## 社会医学系専門医制度(JBPHSM) Z E N H O 通信(No. 25)

令和6年2月26日発行  
全国保健所長会

1月に全国保健所長会研修が開催されるのに、合わせて指導医講習会を開催しました。今年は当委員会の副委員長で公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業分担者(わかりやすく書くと代表)である香川県東讃保健所の横山勝教所長を講師に開催しました。研究班では様々な活動をしていて、専攻医はもちろん、指導医の方にも知って頂きたい事業を数多くありますので、各地の社会医学系専門医研修に活用してもらいために、全国の指導医が集まる講習会で発表いたしました。研究班では専攻医の方を対象とした事業も開催していて、参加型の事業ですと、夏に開催している公衆衛生の興味のある医師・医学生向けの「公衆衛生サマーセミナー(PHSS)」、公衆衛生医に興味のある方向けの「公衆衛生合同相談会(PHCC)」、日本公衆衛生学会の自由集会として開催している「公衆衛生医の集い」、冬に開催している専攻医向けの「公衆衛生ウィンターセミナー(PHWS)」があります。また、事業を通じて作成した動画を全国保健所長会のHPのトップ画面の左下にある「保健所長のお仕事紹介～現役公衆衛生医師のホンネにせまる～」や「公衆衛生チャンネル」で紹介していますので、バナーをクリックしてもらって面白い情報がたくさんあります。4月になって新しい医師が入ったら教えてあげてください。

さて、No25では、中四国、近畿、東京、全国の指導医講習会の報告をいたします。

### ブロック別指導医講習会の実施報告

#### 1. 中四国ブロック：令和5年11月17日

(講師・記録：郡 尋香 徳島県阿南保健所兼美波保健所)

令和5年11月17日に中四国ブロック保健所連携推進会議(高知市)に合わせて指導医講習会が行われました。申込者は27名で、うち保健所長は25名、課長・課長補佐が2名でした。概要をご報告します。

主な内容は、①専攻医等に関する調査、②専門医試験対策、③指導医更新の3つで、前半は自作のスライド、後半は専門医協会の2023年度版説明資料を用いて説明しました。

「専攻医等に関する調査」では、全国保健所長会事業班の一部として令和4年度に山形県の鈴木恵美子先生らと実施したインタビュー調査結果を確認しました。令和4年度「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書」の19ページ以降の内容です。「専門医試験対策」としては、(1)サブ端末(タブレット・スマホ)とヘッドセット(or マイク付イヤホン)の準備、(2)試験に専念できる空間と安定した通信環境確保、(3)「公衆衛生医師チャンネル」の受験報告の参考動画視聴、の3点について受験者への案内をお願いしました。

「指導医更新」としては、ほとんどの参加者が2022年に更新経験済みと分かり、次回更新時の要件や専門医協会資料から学会総会の開催時期などを確認し、学会にも計画的に参加いただきたい点をお伝えしました。

なお、講習会前日に自作スライド部分の複数の誤字に気づきました。よりによって指導医講習会に確認不十分な資料をお出ししてしまい、参加された先生方には大変失礼しました。

会場は素敵な雰囲気建物でホールには垂れ幕も設置され、随所に開催地・高知県のおもてなしを感じました。本体の会議もとても勉強になり、楽しく、そしてためになる出張でした。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 2. 近畿ブロック：令和5年12月22日開催

(講師・記録 柴田 敏之 大阪府泉佐野保健所長)

12月22日金曜日に近畿ブロックの保健所連携推進会議が開催されました。開催担当市である大阪市保健所長の中山先生から、会場の大阪市中央公会堂は国指定の重要文化財であることを、ご案内いただきました。大都会の真ん中にありつつも二本の川に挟まれた緑豊かな中之島にある歴史ある中央公会堂で、またこの日は最高気温5度で最低気温が1度という今年一番の寒さでありながら晴天にも恵まれ、推進会議と合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会(近畿ブロック)」がランチョンセミナー形式で開催されました。新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行されて初めての近畿ブロックでの講習会で、現地参集のみでの開催でしたが、28人と多くの方にご参加いただきました。

前半については社会医学系専門医の制度を中心にお話しさせていただきました。多くの指導医の方は昨年度より更新時期を迎えており、また今年度の更新手続きは締め切られた後での開催でしたので、これまでの内容とシニア世代向け、ミドル世代向けの受験資格拡充について、おさらい程度に簡単に説明させていただきました。講習会を担当するにあたり今回改めて専門医協会が作成されたスライドを勉強しなおしますと、相当練りに練られた構成・内容であり、求められている専門医像にはまだまだ及ばない自分には身が引き締まる思いでした。

後半はまず、“コンピテンシー”についてのお話をしました。コンピテンシーは専門研修後の成果としてあげられている、コア・コンピテンシーという文言の類義語にあたります。公衆衛生の分野では外科手術の上手さといった手技的な技術が必要なことは少なく、また医学的な知識だけでは保健所運営は上手くできないと言われていています。卓越した業績を上げる外交官を研究したアメリカのマクレランド教授の発表内容を例に、コンピテンシーとはなにか、について説明させていただきました。次に昨年度に引き続き大阪府での医師人材育成について報告いたしました。モデル事例集の第2部は若手医師が保健所の20人程度のグループ長となった時に降りかかる、医学教育や医療機関での勤務経験だけでは獲得できないと思われる初級の管理業務についての事例と解説について作成したものです。最後に保健所でのデータを用いた論文発表についてお話しさせていただきました。

つたない説明でしたが、今回はランチョンセミナー形式であったこともあり、気軽にお聞きいただけたかと思います。ご清聴ありがとうございました。

## 3. 東京ブロック：令和6年1月18日

(講師・記録 渡部裕之 東京都西多摩保健所長)

村上邦仁子 東京都西多摩保健所保健対策課長)

社会医学系専門医指導医指導医研修会(東京ブロック)を令和6年1月18日にハイブリッドで開催し、会場18名、Zoom21名の申し込みがありました。

まず、TOKYOプログラムの推進体制について、東京都西多摩保健所長の渡部裕之よりご説明しました。

続いて、同保健対策課長の村上邦仁子より、「TOKYOプログラムの課題への推進委員会の取り組み～指導医が孤立しないために～」と題し、プログラムを継続実施する中で見えてきた課題と取り組みについてご報告しました。専攻医を抱える指導医に実施したアンケート結果をもとに、現指導医が感じる難しさをロジックツリーとして示しました。専攻医を抱える指導医は限られているため、なかなか周囲と経験の共有がし難いこと、個々が工夫しながら指導を継続している中で、これでよいのか不安に感じておられる指導医も少なくないことなどが分かりました。また、同専門医制度のメリットが伝わりにくい、

更新をためらう指導医もあるという声もありました。

各種課題への取組として、令和5年度に再開したTOKYOプログラム推進委員会から、指導において有用となるツール「明日、専攻医が来たら」や、「8つのコアコンピテンシーの獲得が想定される職層期」に関する検討結果などをご紹介しました。コロナ禍で専攻医の研修が計画通りに進められない状況下で、東京都保健医療局保健政策部としても、研修機会の確保のために受講方法の拡充を行うなど、工夫をして進めたことについても説明を行いました。

会場からは、自分だけで指導せず周囲を巻き込む工夫や、日常業務を活かす視点、今回のようにアンケート結果などを活用し、指導医研修会の方が指導医同士の学びの場になるとよいといった意見が挙がり、活発な議論の場となりました。

社会医学系専門医制度は医師の生涯学習の側面もあります。TOKYOプログラムが発足してまだ7年ですが、今後もモチベーションを保ちながら継続的に発展していくための取組みが求められます。

#### 4. 全国保健所長会研修会指導医講習会：令和6年1月22日開催

(講師・記録：横山勝教 香川県東讃保健所長)

全国保健所長会研修会に合わせて、指導医講習会を開催しました。

社会医学系専門医の専門研修プログラムが動き出してから7年目となり、行政部門に70名以上の専門医と指導医も670名以上がいる一方で、資格の更新状況を見ると3割程度が辞退もしくは未反応となっています。「専門医・指導医の取得や更新をするメリットが分からない」という声も聞かれるという現状を受けて、改めて専門医・指導医になるメリットとデメリットについて出席者と認識を共有しました。メリットとしては①系統立てて専門分野を学ぶ機会を確保し、専門性を向上させることができる、②住民・職場からの職業的な信頼を得ることができる、③指導医がいることは研修施設の条件であり、多くの指導医が存在し魅力的な専門研修プログラムを提示することが人材確保につながる、の3つを挙げました。一方、デメリットとしては、時間的と経済的な負担を挙げました。個人のメリットとデメリットを超えて、長期的な視点で見れば、指導医の存在は専門医制度や社会医学の発展にとって重要であり、個人のためだけでなく、後輩や社会のためにメリットがあるとしました。

次に、指導に役立つ情報として、専門研修プログラム整備基準に挙げられている8つのコンピテンシーをイメージした可視化をして専攻医に必要な体験をプログラムすることが重要であること、YouTube「公衆衛生医師チャンネル」に専攻医体験談が掲載されていること、専攻医同士の交流を深めるためのウィンターセミナーを昨年度から開催していること、勉強会等に使える教育資材の紹介や香川県での指導状況について情報提供を行いました。

最後に、制度の理念として掲げられている「多世代・生涯にわたる社会医学の発展に寄与する」ことを目標として、各参加者が指導医の維持と専門医の育成に携わることをお願いして講習会を終了しました。

本講習会が参加者にとって、指導医としての存在意義の確認と、実際の指導の参考になれば幸いです。ご参加いただいた皆さま、開催にご協力いただいた皆さまにお礼をお伝えして報告いたします。

発行責任者：山本長史（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）